

文学研究科 指導計画

1. 研究科概要	<p>【修士課程】</p> <p>日本の古代から近現代に至る各時代の文学や伝統芸能、児童文学、漢文学、書道など、幅広い分野の研究者が在籍し、授業や指導を担当しています。学生は日本の文学と文化に関するさまざまな科目を履修し、指導教員から各自の研究テーマに関する指導を受けながら、知見を深め、高い研究能力を身につけます。日本の文学と文化に関する諸問題について領域を横断して学ぶことができ、広い視野を持って各自の研究テーマに取り組むことが可能です。</p> <p>本修士課程では、総合的・体系的な学識を身につけて課程修了後さらに日本の文学や伝統文化に関する研究に携わって学術の発展に寄与する人材、また、その学識を活用してメディア、出版業界、あるいは中学校・高等学校の国語や書道の教育の場などで高度な専門性を発揮する人材、幅広い教養と論理的に磨かれた思考力・表現力をいかして一般企業等でもすぐれた能力を発揮できる人材を育成します。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>グローバル化が進む現代社会において、日本の文学と文化を学び世界に発信するとともに、地域の特性を考慮した新たな文化振興の活動に寄与する人材の育成が求められています。そのためには、知識やリテラシーの習得にとどまるのではなく、「日本」「日本語」「日本人」をめぐる歴史、言語、文化等の特徴を深く認識し、「世界」との交流の可能性においても考察する必要があります。</p> <p>本博士後期課程では、研究者としての高度に専門的な知識と分析力、発信力を有し、日本の文学と文化の専門家として世界の文学と文化との交流を目指すことのできる人材を育成します。</p>
2. 取得可能学位	修士（文学） 博士（文学）
3-1：指導計画（修士課程）	
	審査種別： 修士論文
1 年次	4 月（入学） 年次の初めに指導教員を決定する。
	4 月～5 月 指導教員と相談の上、「指導教員・題目届」を作成し、指導教員に提出（このうち指導教員が武蔵野学部事務課に提出）
	7 月頃 2 年生の修士論文中間発表会に出席
	1 月下旬～2 月 2 年生の修士論文公聴会に出席 修士論文構想発表会で修士論文の構想を発表
	（以上の時期は各年度の大学院の計画等によって変更になる可能性がある。各年度の大学院ガイダンス等での通知をよく確認すること。）
	<p>入学試験出願時の希望に基づき、年次の初めに指導教員を決定します。ただし、志望する分野や希望する研究テーマ等により、かならずしも希望どおりの指導教員とならない場合があります。</p> <p>4 月から 5 月にかけて、まず、指導教員と相談の上、在学中の履修計画や研究計画を練り、修士論文の題目を検討し、「指導教員・題目届」を作成します。「指導教員・題目届」は指導教員の</p>

	<p>許可を得たのち、指導教員を通じて学部事務課に提出します。MUSCAT で通知される所定の期日（例年5月初旬）までに完成できるよう、4月に入ったら指導教員と連絡をとりあい、相談を始めましょう。「指導教員・題目届」提出後も研究テーマの変更を検討することは可能ですが、大幅な変更をしようとする場合はかならず指導教員と相談し、その指導を受けながら検討するようにしてきましょう。そのためにはかならず早めに指導教員連絡をとり、しっかりと相談するようにしてください。</p> <p>修士課程の1年次は「古典文学研究1A」「伝統文化研究1A」「近現代文学研究1A」を必修科目としてかならず履修します。また、研究計画に沿って、積極的に資料調査や文献講読を進めていきます。</p> <p>修士論文の中間発表会・公聴会では、2年生の発表を聴き、質疑に参加します。これらの会では1年生も司会進行などの役割を担当することがあります。これらの発表会を含め、大学院の行事には積極的に参加し、学内外の学会にも足を運び、学内外の大学院生や研究者と交流の機会をもつよう心がけ、研鑽を積みましょう。また、年度末には、自身の修士論文提出に向けて、修士論文構想発表会で題目・構想等を発表します。この構想発表会での発表は、次年度に修士論文を執筆する予定の場合は必須です。</p> <p>1年生にも紀要類への投稿や武蔵野国文学会等での発表の機会があります。情報を得て挑戦してみてください。もちろん、論文を学外の学術雑誌等に投稿することも可能です。</p> <p>次年度の冒頭には修士論文の題目を検討しなおして提出します。その準備として、春季休業期間も自己の研究テーマの追究は怠らないようにしましょう。また、年度の変わり目頃に2年次の履修計画・研究計画を指導教員とあらためて相談し、計画を練り直します。</p>	
2年次	4月～5月	指導教員と相談の上、修士課程2年次用の「指導教員・題目届」を作成し、指導教員に提出（こののち指導教員が武蔵野学部事務課に提出）
	7月頃	修士論文中間発表会で研究成果を発表
	11月～12月頃	修士論文提出に向けて、指導教員の指導の許可を得て修士論文題目を確定し、「修士論文審査願」を準備（修士論文提出前に指導教員の確認と押印が必要）主査及び副査の決定（研究科委員会）
	1月上旬	修士論文を提出 （学生が武蔵野学部事務室に提出）
	1月下旬～2月	最終試験（口頭試問） 修士論文公聴会で発表 1年生の修士論文構想発表会に参加
	2月～3月	修士論文審査委員会による修士論文及び最終試験の審査、研究科委員会への報告 修士論文及び最終試験の可否判定、修了判定、学位授与の決定（研究科委員会）
	3月（修了式）	学位記交付
	（以上の時期は各年度の大学院の計画等によって変更になる可能性がある。各年度の大学院ガイダンス等での通知をよく確認すること。）	
	1年次の終わりから2年次の初めにかけて、指導教員と相談の上、履修計画や研究計画を検討しなおし、修士論文の題目を練り直し、あらためて「指導教員・題目届」を作成します。「指導教員・題目届」は指導教員の許可を得たのち、2年次の初めのMUSCATで通知される所定の期日までに、指導教員を通じて武蔵野学部事務室に提出します。その後は各自の研究計画に沿って研究を	

	<p>進め、「修士論文演習」の時間を中心にその研究内容について指導教員の指導を受け、主体的に修士論文の執筆に取り組みます。1年次の年度末の修士論文構想発表会に続き、修士論文中間発表会・公聴会での報告・発表は、この年度において修士論文を提出しようとする者・提出した者は本研究科では必須としています。発表の場においては、研究者としての見識に従い、服装や態度、話し方などにも留意するようにしましょう。</p> <p>1年次と同様、紀要類への投稿等の発表の機会があります。積極的に挑戦し、研鑽を積むようにしましょう。</p> <p>このほか、修士論文の執筆・提出に際しては「学位論文審査基準」もよく確認してください。</p>
--	--

3-2：指導計画（博士後期課程）

	審査種別：	博士論文
1年次	4月（入学）	入学後、年次の初めに指導教員を決定
	4月～5月頃	指導教員と相談の上、「指導教員・研究課題及び研究計画書」を作成し、前年度までの研究成果を添えて指導教員に提出（このうち指導教員が武蔵野学部事務課に提出）
	5月～6月頃	研究計画書審査委員会設置（研究科委員会） 研究計画書審査委員会による審査、審査結果通知
	7月頃	修士論文中間発表会に参加
	7月頃	博士論文中間報告会に参加
	1月下旬～2月	修士論文公聴会・修士論文構想発表会に参加
	（以上の時期は各年度の大学院の計画等によって変更になる可能性がある。各年度の大学院ガイダンス等での通知をよく確認すること。）	
	<p>入学試験出願時の希望に基づき、年次の初めに日本文学専攻において指導教員を選定、通達します。なお、原則として、本研究科では、博士課程の入学試験出願時に武蔵野大学入試センターを通して志願者が主たる指導教員として希望する教員に連絡をとり、志望する分野や希望する研究テーマ等に関して齟齬がないかを確認することとしています。また、このほか諸事情により、かならずしも希望どおりの指導教員とならない場合があります。</p> <p>年度初めはまず、指導教員とよく相談し、その指導のもと、在学中の履修計画・研究計画・研究題目を検討し、「指導教員・研究課題及び研究計画書」を作成します。「指導教員・研究課題及び研究計画書」は指導教員の許可を得たのち、MUSCATで通知される所定の期日までに、指導教員を通じて学部事務課に提出します。「研究計画書」は前年度までの研究経過や業績等を含め、博士論文に向けての長期的な研究計画を具体的に記すようにし、前年度までの研究成果（公刊された論文等）を添えてください。前年度までに公刊された論文がない場合は報告論文（1年次は修士論文による代用可）を作成して添付することとします。この「研究計画書」は文学研究科の研究計画書審査委員会により審査され、研究科の教員による指導のもとで加筆修正や再提出が求められることがあります。提出に際してはしっかりと内容を練って文章化するようにしてください。</p> <p>その後は各自の研究計画に沿って研究を進め、「博士論文研究指導」の時間を中心にその研究内容について指導教員の指導を受け、博士論文執筆に向けて積極的に取り組みます。また、「日本文化研究」や「古典文学研究」「近現代文学研究」を履修し、専攻する分野以外についても広く知見を身につけ、研究の力を磨きます。</p> <p>博士論文については「学位規則」（昭和二十八年文部省令第九号）により「公表」が義務付けられています。この公表は自立した研究者であることを示す良い機会でもありますから、充実した博士論文の完成に向けて、博士課程1年次から十分な準備を整えるようにしましょう。</p>	

	<p>博士論文中間報告会が開催される場合は参加し、自身の参考にしてください。また、修士課程の修士論文構想発表会・中間発表会・公聴会にも毎年参加し、質疑に積極的に加わりましょう。これらの発表会においては司会等の役割分担がある場合もあります。</p> <p>博士課程入学後は、専攻する分野に該当する学会、研究会に加入し、積極的に学会活動をおこなうことが望まれます。学内外の学会や研究会に参加して精力的に口頭発表をおこない、紀要や学術雑誌等に論文を投稿し、博士論文執筆の足がかりとします。なお、博士論文を提出しようとする者は3本以上の論文刊行業績を持つことを本研究科では学位取得のための必須要件としています。</p>	
2年次	4月～5月頃	指導教員と相談の上、「指導教員・研究課題及び研究計画書」を作成し、前年度までの研究成果を添えて指導教員に提出（このうち指導教員が武蔵野学部事務課に提出）
	5月～6月頃	研究計画書審査委員会による審査、審査結果通知 研究計画書等の到達度により予備審査委員会設置（研究科委員会）
	7月頃	修士論文中間発表会に参加
	7月頃	（予備審査が開始した場合）博士論文中間報告会で研究成果を発表
	1月下旬～2月	修士論文公聴会・修士論文構想発表会に参加
	（以上の時期は各年度の大学院の計画等によって変更になる可能性がある。各年度の大学院ガイダンス等での通知をよく確認すること。）	
	<p>1年次の終わりから2年次の初めにかけて、指導教員と相談の上、履修計画や研究計画を再検討し、あらためて「指導教員・研究課題及び研究計画書」を作成します。「指導教員・研究課題及び研究計画書」は指導教員の許可を得たのち、MUSCATで通知される所定の期日までに、指導教員を通じて学部事務課に提出します。「研究計画書」は1年次と同様に前年度までの研究経過や業績等を含めて記すこととし、前年度までの研究成果（公刊論文。公刊論文がない場合は報告論文で代用可）を添えることとします。「研究計画書」は1年次と同様、文学研究科の研究計画書審査委員会により審査され、加筆修正や再提出が求められることがあります。</p> <p>2年次も引き続き、「博士論文研究指導」の時間を中心に研究内容について指導教員の指導を受け、自己の研究テーマに取り組みます。提出した「研究計画書」と照合して計画どおりに研究が進んでいるか、その進捗状況を随時、指導教員に報告し、指導を受けましょう。研究が計画通りに進行しないことはよくあることですが、停滞の末に放置してしまう結果にならないよう、指導教員の助言を得てください。また、適宜、指導教員と相談して決めた履修計画に沿って授業科目を履修・聴講し、博士課程修了に必要な単位の修得を進めます。</p> <p>「研究計画書」等の到達度により、2年次から博士論文の予備審査が始まります。予備審査が開始した場合、2年次のうちに博士論文中間報告会で研究成果の発表をします。この発表は次年度に博士論文を提出する学生は必須で、博士論文提出資格を得るための予備審査の一環となります。2年次の段階の予備審査の結果は年度末までに通知されます。2年次の予備審査を通過している者は次年度において学位論文提出資格審査に進むことができます。</p>	
3年次	4月初旬～5月上旬	指導教員と相談の上、「博士論文提出予定届」を作成し、所定の期日までに提出（学生が武蔵野学部事務課に提出） ※2年次の予備審査を通過していない場合や当該年度中に博士論文を提出しない予定の場合は、研究計画書を再提出させることがある。詳細はガイダンス等での通知を確認すること。
	6月下旬頃	指導教員の許可を得て、「学位論文提出資格審査願」等の必要書類及び予備審査

	論文目録に予備審査論文（公刊論文3編以上）を添えて提出（学生が武蔵野学部事務課に提出。なお、具体的な期日は諸通知を確認すること）
6月～7月頃	予備審査委員会による学位論文提出資格審査 学位論文提出資格認定（研究科委員会）、審査結果通知
8月頃	指導教員の許可を得て博士論文の題目を確定し、「博士論文審査願」を準備（博士論文提出前に指導教員の確認と押印が必要）
10月	博士論文の提出（3月修了を目指す場合の最終期限。なお具体的な期日は諸通知を確認すること）
10月～11月	博士論文審査委員会の設置（研究科委員会）
12月～2月頃	博士論文の最終試験（口頭試問、公開）
2月～3月	博士論文審査委員会による博士論文及び最終試験の審査、研究科委員会への報告 博士論文及び最終試験の合否判定、修了判定、学位授与の決定（研究科委員会） 学生への結果通知
2月頃	博士論文公聴会で研究成果を発表
3月	学位授与式における学位記交付
（以上の時期は各年度の大学院の計画等によって変更になる可能性がある。各年度の大学院ガイダンス等での通知をよく確認すること。）	
<p>2年次までの予備審査の結果、及び、研究成果（学会発表、紀要論文、全国学会誌への投稿、調査報告など）、3年次の年度末までの単位取得見込み等を確認し、指導教員と相談して、今年度中に博士論文を提出するかどうかを検討し、「博士論文提出予定届」を提出します。3年次は、博士論文提出予定者は「指導教員・研究課題及び研究計画書」を提出する必要はありませんが、必要に応じて「研究計画書」を修正しましょう。博士論文を提出する予定の者は、6月下旬の所定の期日までに、指導教員の許可を得て、「学位論文提出資格審査願」等の必要書類及び予備審査論文目録に予備審査論文（公刊論文3編以上）を添えて、武蔵野学部事務課に提出します。その後、予備審査委員会による学位論文提出資格審査を受けます。審査に合格した場合は、指摘された問題点や助言を踏まえて、指導教員と相談しながら論文草稿の加筆訂正等をおこない、博士論文を完成させます。なお、学位論文提出資格審査に合格するためには博士後期課程修了に必要な所定の単位をすでに修得しているか当該年度末までに修得する見込みであることも必要です。</p> <p>3月修了を目指す場合の博士論文提出時期は、本研究科では10月としています。所定の期日に博士論文を提出したのち、外部の審査委員を含む博士論文審査委員会により口頭試問が公開でおこなわれます。合格した場合には、博士論文公聴会（2月）に臨みます。あわせて、論文の公開方法（著書としての刊行等）を指導教員と相談します。</p> <p>このほか、博士論文の執筆・提出に際しては「学位論文審査基準」をよく確認してください。</p>	